



おじゃまします

さかき新企業人インタビュー②①

高度な切削加工技術と品質で 提案型企业への転換をめざす

株式会社徳武製作所 代表取締役社長

徳武 利洋さん



昭和44年生まれ。屋代南高校卒業後、(株)徳武製作所に入社。平成16年に34歳で代表取締役に就任。その直後にリーマンショックが襲ったのを機に技術提案型企业への転換を図る。異業種間で新継手天然ガス接合「エコウェル工法」等の新技术を開発・製品化するなど、培ってきた技術力を基盤に先覚的な経営手腕を発揮する。休日にはかつて熱中したバイクとスノーボードを楽しむ。「先日、小3と小1の娘二人がゲレンデデビューしたんですよ」とこやかに話すマイホームパパでもある。

継手天然ガス圧接「エコウェル工法」はその1つです。これは鉄筋の新しい接合工法で、アセチレンガスに変わって環境にやさしい天然ガス（エコウェルガス）を使って接合します。誰が施工しても安定品質が確保できることが最大の特徴です。当社は専用バーナーや吹管などの部材開発を担当し、東京ガスさんなどの異業種と組んで商品化しました。施工技術の認定機関「エコウェル協会」や代理店組織も作り、この新しい接合工法



まず御社の歴史をお聞かせください。
当社は現会長である父が創業しました。父は最初、町内の企業で職人として働いていましたが、当時、一人前になると独立させるのが慣例だったようで、父も独立して自宅の土間に機械を入れ、仕事を始めました。私が小学校の頃です。藁葺き民家の土間で両

高校を卒業後入社しました。社長に就いたのは平成16年です。下請けですから元請の業績や動向に左右されやすいので、その意味では父も先輩方も苦労したと思います。私が社長に就任した数年後に起こったリーマンショックをきっかけに、元請依存型から

具体的な製品はありますか？
「自身が会社に入られたのは？」
「ご自身が会社に入られたのは？」
「ご自身が会社に入られたのは？」

の普及促進を図るべく活動しています
「そうした取り組みは今後ますます増えそうですね。」
当社の持ち味である高硬度材切削加工など技術力の高さを武器に、多角的な視野から市場開拓や商品開発を目指したいですね。具体的な分野を挙げれば医療・福祉関係もその1つでしょう。私たちが作るほんの小さな部品でも世の中に貢献できたらうれしいですからね。他にも、私たちの技術を活かせる場所やジャンルは、たくさんあると思っています

ものづくりの人間として、何よりも品質にこだわりたいという徳武社長。父から受け継いだ高硬度材切削加工技術を武器に、業種の垣根を飛び越えて新しいジャンルで新しい製品開発にも力を注ぐ。

親が作業をしていたのを覚えています。その後、仕事仲間と昭和60年に有限会社として会社を組織しました。建設機材や自動車のショックアブソーバー等の油圧関連部品の切削加工が主な仕事でした。これは現在も当社の技術の大きな柱になっています

と組んで半製品を企画・製作し、メーカーに販促をかけてみるとかです。さらに発展させて、自分たちで最終製品まで作ろう、そういう取り組みを始めています

の普及促進を図るべく活動しています
「そうした取り組みは今後ますます増えそうですね。」
当社の持ち味である高硬度材切削加工など技術力の高さを武器に、多角的な視野から市場開拓や商品開発を目指したいですね。具体的な分野を挙げれば医療・福祉関係もその1つでしょう。私たちが作るほんの小さな部品でも世の中に貢献できたらうれしいですからね。他にも、私たちの技術を活かせる場所やジャンルは、たくさんあると思っています